

チャレンジ ～挑戦～



信陵中学校 学校だより

令和 6年 5月15日
第 2号
文責：校長 青柳 茂宏

教育目標 『 自律・協働・挑戦 』

【修学旅行より】

平成6年度各種行事、順調にスタート！

新年度がスタートし1ヶ月が過ぎようとしていますが、各種行事も順調に進んでいるところです。

4月末には、3年生の修学旅行（東京・千葉方面）が行われ、生徒にとっては思い出に残る貴重な体験となりました。また、同時期に1・2年生の見学学習も行われ（2年生は仙台方面、1年生はいわき方面）、活動を通して学級の仲間との絆を深めるいい機会となりました。今回の様々な活動や体験は、学校目標である「自律・協働・挑戦」を身につけるよい経験となりました。



「今の時代、子供たち身につけてほしい力！」

予想もしなかった世界規模の感染症の流行も含め、これからの社会は、多様化、国際化、技術革新などが急速に進み、加えて異常気象や世界情勢の変化など、予測困難な時代を生き抜いていくことが予想されます。そのような、10年後20年後の将来を想像しながら、今の子供たちにどのような力を身につけさせることが必要なののでしょうか？

結論になってしまいますが、私は

自分で「**気づき、考え、行動できる力**」だと考えています。

では、そのために学校として目指すべき大切なことは「**自立のための教育(自立するための基礎を培う教育)**」を進めることだととらえています。」

「自立のための基礎づくり」のためには、周囲の人と共に生きていくことの必要性を理解するとともに、周りの人々への「**感謝の心を忘れず相手を思いやる気持ち**」が大切となります。そこで、全校集会でも生徒に話をしましたが、次のことを機会に触れながら指導してまいりますので、ご家庭でもご協力のほどよろしくお願い致します。



「時を守り、場を清め、礼を正す」

これは哲学者の森信三氏の言葉です。この言葉は学校現場はもとより、企業理念や社会人教育など多方面で活用されています。

「時を守り」とは「時間を守ること」

この意味は、「時間を守ること」は相手を大切にすること、そのことが自分に対する信頼にもつながっていくということ

「場を清め」とは「身の回りの整理整頓(掃除)をすること」

この意味は、「身の回りを整理整頓する」ことにより、気づく人になれること、そのことが他を大切に、感謝や奉仕の心にもつながっていくということ

「礼を正す」とは、「あいさつ(返事)をすること」

この意味は、「元気なあいさつをする」ことにより、心を開いて相手に接するということが相手を思いやる気持ちにもつながっていくということ(返事も同じ)



この言葉に共通することは、相手を思いやる気持ちです。人は誰もが人とのかわりの中で成長していきます。感謝の気持ちを忘れず自立していく心を育ててまいります。



